

地形・地質

金沢平野の地形は内陸側から、山地・段丘・扇状地・潟湖の点在する沖積低地・海岸砂丘が北東から南西に帯状の配列をし、その中央部に手取川扇状地が広がっています。地域を①河北潟周辺、②手取川扇状地、③小松江沼低地に分けています。

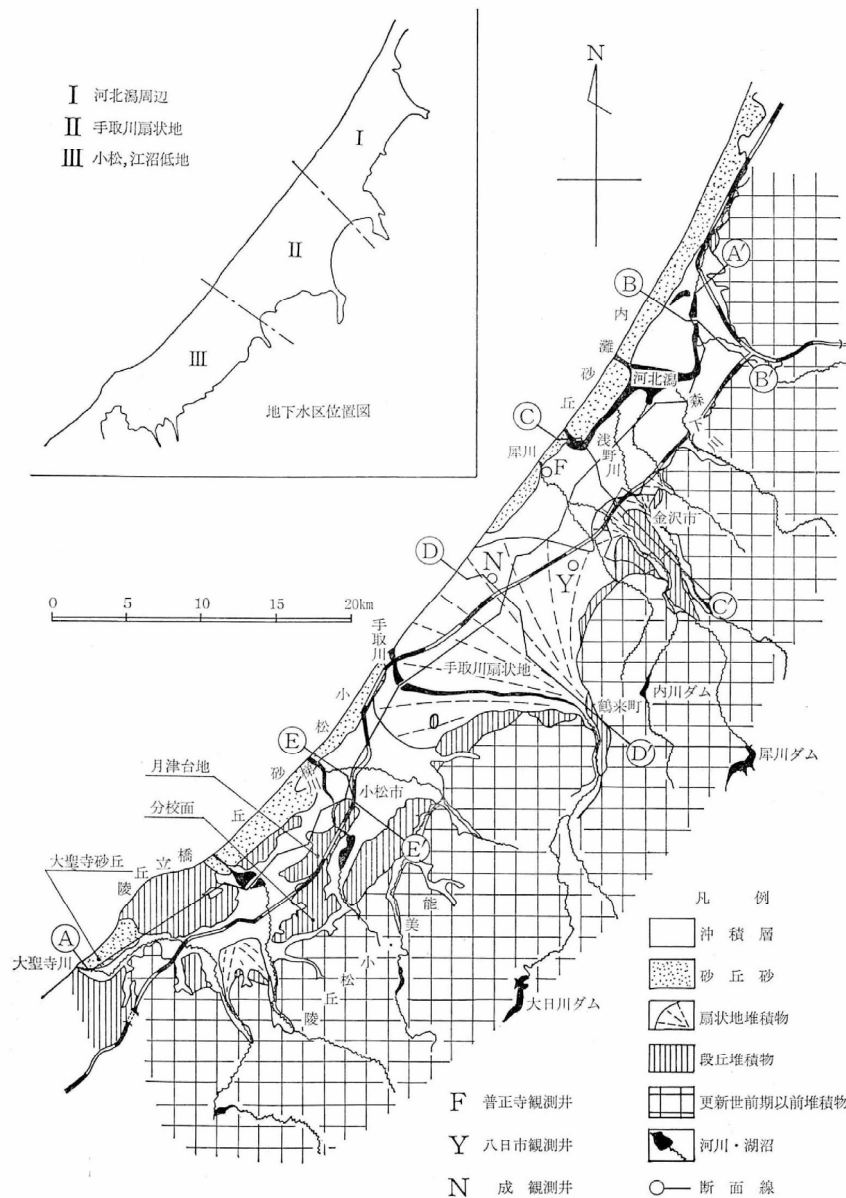
水文地質と地下水賦存形態

時代	地下水区 区分記号	河北潟周辺		手取川扇状地		小松江沼低地			
		地質	水理定数等	地質	水理定数等	地質	水理定数等		
沖積層	Ad	(内灘) 砂丘砂 (30~50+)		(小松) 砂丘砂	新砂丘 N=5~15 旧砂丘 N=15~30+	(小松・大聖寺) 砂丘砂 (20~30)			
	AC ₁	粘土 ^x (20~25)	N=0~3	粘土 ^x (0~10)	● 粘土 N=2~5 砂礫 k=4×10 ⁻¹ N=10~35 AC ₂ : N=5~10	粘土 (10~20)	S _c ≒100~3000		
	As	粘土・砂 [◎] (15~30)		砂礫 (0~20)		砂 (0~7)			
AC ₂	粘土 ^x (10~30)	砂 N=5~30 粘土 N=≦5 砂質粘土 N=10~15		粘土・砂 (0~25)		粘土 ^x (0~15)			
洪積層	DG ₁	砂礫 (0~70)	S _c ≒100~2000	砂礫 (20~120)	k=n×10 ⁻¹ ~10 ⁻² N=20~50+	砂礫・砂 (0~20)	S _c ≒100~500		
	DC ₁	粘土 (0~10)		粘土 (0~20)		N=15~20		粘土・礫混り粘土 (0~15)	
	DG ₂	砂礫・砂 (20~30)		砂礫・砂 (15~20)		●		k=n×10 ⁻² N=45~50+	火山灰 (0.5~1) 片山津層 砂・砂礫 (25~40)
	DC ₂	粘土 (5~30)		粘土 (5~25)		×			南郷層
	D~T	砂・砂礫・粘土 (150+)		砂礫・粘土 (90+)		◎		k=n×10 ⁻² ~10 ⁻³	砂礫・粘土 (30~70+)
第三系	T.u T.m T.v	大桑砂岩層 (150+) 黒壁火砕岩層		大桑砂岩層 (30+)	k=n×10 ⁻³	(150+)			

() : 層厚 (m), k: 透水係数 (m/s), S_c: 比湧出量 (m³/d/m), Ω: 比抵抗値 (Ω-m), N: 標準貫入試験値,
○: 不圧帯水層, ●: 帯水能のよい不圧帯水層, ◎: 被圧帯水層, ●: 帯水能のよい被圧帯水層, ⊕: 裂か帯水層, ×: 賦圧層

地下水

①河北潟周辺は、DG(f)～DG1層が主要帯水層で、大桑砂岩層(Tu)・卯辰山層(D～T)・DG2層の地下水も取水しています。②手取川扇状地は、金沢平野で最も地下水の豊富な地域で、DG(f)層は最も有能な帯水層です。③小松江沼低地は金沢平野の中では地下水に乏しい地域で、DG1層・DG2層・As層から採取されています。



金沢平野の地質概要図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

<http://www.jagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwdb.html>（日本地下水学会）